

科目名(Subject)	ミクロ経済学 I (Microeconomics I)		
単位数(Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	中島 大輔 (NAKAJIMA, Daisuke)	研究室番号 (Office)	421
Office Hours	TBA		
<p>1. 授業目的・方法(Course objective and method) 目的: 大学院初級レベルでのミクロ経済学の理解 本科目では、大学院 1 年生の標準的なミクロ経済学を行う。具体的には個人の意思決定問題、具体的には消費者行動の理論、企業行動の理論、およびその結果の需要・供給分析（部分均衡分析）を扱う。</p> <p>どのような社会経済においても資源は稀少である。ミクロ経済学では、その資源が、経済活動の中でいかに配分されるか、資源を受け取る価格がどのように決まるかを考察する。前半は、これらの資源配分と所得分配の問題を市場メカニズムにより分析する。後期のミクロ経済学 II では、それらの問題をゲーム理論により分析する。</p> <p>方法: 担当教員による講義と受講生による発表 トピックごとに教科書に沿った Lecture Notes を使って基本的な内容を講義した後、受講生にはいくつかの Exercise に取り組んで発表してもらう。</p>			
<p>2. 達成目標(Course Goals) 個々の興味のある問題にミクロ経済理論を応用して分析ができるようになること。</p>			
<p>3. 授業内容(Course contents) 以下のトピックを順に講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 意思決定理論の基礎 3. 消費者行動の理論 4. 企業行動の理論 5. 均衡分析・余剰分析 			
<p>4. 事前学修・事後学修(Preparation and review) 学部レベルのミクロ経済学の知識と、微積分・線形代数の基本的な知識が必要となる。 また、事後には使用教材に挙げる演習問題を多数解くことになる。</p>			
<p>5. 使用教材(Teaching materials) 神取道宏 『ミクロ経済学の力』, 日本評論社, 2014. 神取道宏 『ミクロ経済学の技』, 日本評論社, 2018</p>			
<p>6. 成績評価の方法(Grading) 授業内での発表・演習問題によって評価するが、必要があればTake-Home-Examを課す</p>			
<p>7. 成績評価の基準(Grading Criteria) 経済学コース成績評価統一基準を参照</p>			
<p>8. 履修上の注意事項(Remarks) 本科目担当者が同一学期に講義する学部「ミクロ経済学」（火木3時限目）を聴講することが望ましい。</p>			